

最低限これらの文法事項がどんな場合に使われるのかを高校時代に使用した参考書で良いので、各文法事項の冒頭の説明を読んで理解しておくことは大切である。学習法については、文法書で文法項目を集中して復習するのも方法だが、これらの文法事項を読みものを通じて、文法と読みを平行して復習するのも方法であろう。

英語学習上級者には、抽象度が高く、ある一定の知識、経験をもち合わせた成人向けに書かれた英文に挑戦してほしい。比較、仮定法、倒置、省略、強調、同格、無生物主語、名詞構文、句と節の挿入は押さえておきたい。書き手は、読み手により説得力をもたせるためにも、英文構造をより複雑に組み立ててくるし、使われる語彙も当然豊富になる。英米のエッセイなどは読み応えがある文章がたくさんあるので是非触れてみて、一文一文身にしみながら英文を味わうおもしろさを知ってもらいたい。

精読を通じて学習する利点は、読解力が高まるにつれ、例えば英文構造にしても、so~that だからとか、比較だからこう訳す(訳読の名残)ではなく、書き手は、自らの感情や思考を英文構造や構文に託しているのだからこうした書き手の気持ちや微妙なニュアンスが文法、構文を通じて直に分かるようになる。ここまできると、訳書ではなく原文に当たってみたくなる。原書の原文を読むことで、訳書よりも直接その意味がストレートにわかってきて、英語そのもので理解するようになる。原書にあたらないうまくいかないという感じになれば、精読力云々(うんぬん)は卒業であり、その時、前から自然に英文を読んでいることであろう。

文法、構文、語彙に立脚して英文を丹念に読む学習、精読は、読むための学習だけでなく、読むことを通じて、英作文、会話、リスニング、さらに、各種英語の検定試験へと学習の応用が効き、学生諸君の英語学習の助けとなる。辞書一冊(これも正しく使いこなせることが前提)あれば、どんなジャンルの英文も読めるという自信がつけば、英語はもっと楽しくなる。

## ミスター・メンとリトル・ミス——英語キャラクター絵本の人気シリーズ

経営学部  
安藤 聡

ロジャー・ハーグリーヴズ (Roger Hargreaves, 1935~1988) の絵本「ミスター・メン」(Mr Men) シリーズは1971年にその第一作『ミスター・ティックル』 *Mr Tickle* が出版されて以来、『ミスター・チアフル』 *Mr Cheerful* まで全43作を数え、絵本ばかりでなく様々なキャラクター商品も英語圏のみならず世界中で人気を博している。絵は単純な線と鮮やかな色彩で描かれ、各巻のタイトル (= 主人公の名前) がそのままその主人公の性格、特質を表す。例えばミスター・ノイズィー (Mr Noisy) はとても五月蠅く、ミスター・レイズィー (Mr Lazy) は怠け者で、ミスター・フォゲットフル (Mr Forgetful) は忘れっぽく、ミスター・ロング (Mr Wrong) は間違えてばかりいる。

ハーグリーヴズはヨークシャー西部のクレックヒートンで洗濯屋を営む両親の許に生まれ、高校を卒業して一年間家業を手伝ったのち、近隣のブラッドフォードの広告会社にコピーライターとして就職し、数年後にロンドンの広告会社に移った。絵本の文章にも短いセンテンスと単純な言葉が効果的に使われているが、このような技法はおそらくコピーライターとして活躍していた時代に培われたのであろう。ロンドン時代のある日、会社での会議中に、ハーグリーヴズは手が異様に長い男の絵を書類の余白に落書きしていた。その絵がことのほか上手く描けたので、自宅に持ち帰り長男のアダムに見せたところ、アダムは「この人にくすぐられたらどうなるだろう?」と言ったらしい。

こうして処女作『ミスター・ティックル』が出来上がったという。同時に人並み外れた大食漢の物語『ミスター・グリーディー』(Mr Greedy)、いつも楽しい『ミスター・ハッピー』(Mr Happy)、詮索好きな『ミスター・ノズイー』(Mr Nosey)、くしゃみばかりしている『ミスター・スニーズ』(Mr Sneeze)、ぶつかってばかりいる『ミスター・バンブ』(Mr Bump)の五編も出版された。三年後に雪だるま (snowman) の『ミスター・スノウ』(Mr Snow)、散らかしてばかりいる『ミスター・メッスイー』(Mr Messy)、何でも反対にしてしまう『ミスター・トプスィー=ターヴィー』(Mr Topsy-Turvy)、馬鹿なことばかりする『ミスター・スイリー』(Mr Silly)、傲慢な成金の『ミスター・アピティー』(Mr Uppity)、とても小さな『ミスター・スモール』(Mr Small)の六編が加えられ、この頃から「ミスター・メン」というシリーズ名で呼ばれるようになった。

たとえば第26巻『ミスター・ストロング』(Mr Strong)は以下のような話だ。ミスター・ストロングは世界最強で (Mr Strong is the strongest person in the whole wide world.)、とても怪力なので鉄棒を素手で曲げることが出来るだけでなく、鉄棒に結び目を作ることが出来る (He is so strong he can not only bend an iron bar with his bare hands, he can tie knots in it)。ミスター・ストロングの力の源はタマゴで、彼の朝食は前菜がタマゴ、メインディッシュもタマゴ、そしてデザートもタマゴである。朝食の後、歯を磨こうとしても、力が強すぎて歯磨き粉を一度に全部チューブから絞り出してしまい、歯ブラシを折ってしまう (And, as usual, he squeezed all the toothpaste out of the tube. And, as usual, he cleaned his teeth so hard he broke his toothbrush. Mr Strong gets through a lot of toothpaste and toothbrushes!)。ミスター・ストロングは外出しようとして家の扉を破壊してしまう。木にぶつかると木の方が折れてしまい、道で車に轢かれると車の方が大破してしまう。しばらく行くと彼は火事で炎上している農場に行き着く。彼は農場の納屋を地面から引き抜

き、それを担ぎ上げて川へ行き、水を汲んで一気に火を消すことに成功する。農場主から礼としてたくさんのタマゴをもらってミスター・ストロングは家に帰り、扉や椅子やテーブルを破壊しながら昼食の支度をする。昼食もまた前菜がタマゴ、メインがタマゴ、そしてデザートは、というところで、最後に意外なおチがついて終わる。

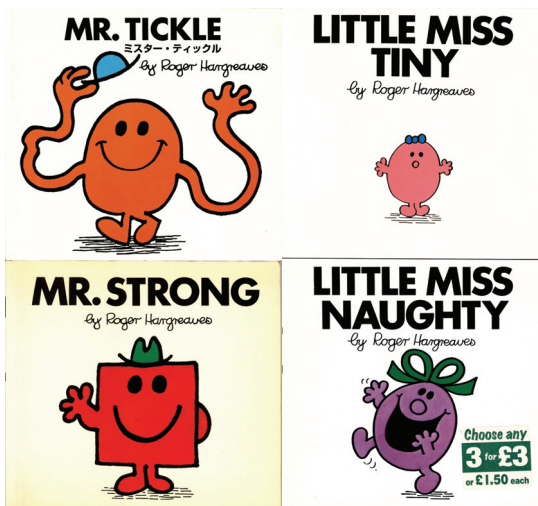
最初の六巻が出版されて十年を経た1981年に、今度は女の子のキャラクター「リトル・ミス」シリーズが始まった。『リトル・ミス・ボッスィー』(Little Miss Bossy)は人に命令ばかりしている仕切り屋の少女が主人公で、『リトル・ミス・ノーティイー』(Little Miss Naughty)の主人公は悪戯ばかりしていて、『リトル・ミス・ヘルプフル』(Little Miss Helpful)は人の手伝いが大好きな少女の話だ。他にも恥ずかしがり屋の『リトル・ミス・シャイ』(Little Miss Shy)やおしゃべりな『リトル・ミス・チャターボックス』(Little Miss Chatterbox)、遅刻ばかりする『リトル・ミス・レイト』(Little Miss Late)、双子の『リトル・ミス・トゥインズ』(Little Miss Twins)、賢い『リトル・ミス・ワイズ』(Little Miss Wise)、頑固な『リトル・ミス・スタポーン』(Little Miss Stubborn)など全33巻がある。

たとえば第5巻『リトル・ミス・タイニー』を見てみよう。このとても小さな少女は、農場のダイニングルームの壁にネズミが空けた小さな穴の中に住んでいるが、小さすぎて誰にも気づいてもらえず、孤独な生活を強いられている (The trouble was, because she was so tiny, nobody knew she lived there. Nobody had noticed her. Not even the farmer and his wife. So, there she lived. All alone. With nobody to talk to. She was very lonely. And sad.)。ある日、友達を探しに彼女は外に出るが、豚も猫も大きすぎて怖いので友達になることが出来ない。そこへ、農場にタマゴを買いに来たミスター・ストロングが登場し、リトル・ミス・タイニーに何人かの友達を紹介する。ミスター・ファニー (Mr Funny) は面白いジョークで彼女を楽しませ、ミスター・グリーディーは好

きな料理のレシピを彼女に教え（分量を百分の一にすることも付け加えて）、ミスター・スイリーも馬鹿なことをして彼女を笑わせる。だが彼女の最もよい友達になれたのは、他ならぬミスター・スモールだった。

ハーグリーブズは1988年9月に脳卒中で急逝した。享年53歳だった。彼の死後、長男アダムがこのシリーズを引き継いで、『ミスター・クリスマス』や『リトル・ミス・パースデイ』といった作品を書いている。（英国のシリーズ化された絵本としてミスター・メン、リトル・ミスと人気を二分する『きかんしゃトーマス』シリーズもまた、作者の死後その息子が後を継いで書き続けている。）すでにミスター・メン、リトル・ミスともにBBCによってアニメーション化されていて、またキャラクター商品としてはぬいぐるみや文房具、Tシャツやスナック菓子はもちろんのこと、女性用の下着まであったりする（リトル・ミス・シャイとリトル・ミス・ノーティーの二種類があるらしい）。

これらの絵本は現在、英語版はワールド・インターナショナル、日本語版はTama エンタープライズから出版されている。



## 英国的スーパーストア

経営学部  
安藤 聡

外国のスーパーは楽しい。その国を、そしてその街を本当に知りたければ、観光名所に行くよりもスーパーに行く方が遙かによからう。観光地には観光客と観光業者しかいないが、スーパーにはその土地の普通の人々がいつでも集まっているのだから。そしてそこには、必ず何かしら意外なものが売られている。英国なら例えばスパゲッティの缶詰とかトーストを立てるためのラックとか。しかも、店内を歩き回っているだけで、ありがたいことにその国の言葉のいくつかを自然に覚えてしまう。突然だが、「まな板」、「もやし」、「綿棒」、「糊」、「録画用テープ」を英語で何と言うか？すべてに即答できる人はあまり多くないと思われる。だが、英語圏のスーパーで買い物をした経験が何度かある人なら、「cutting board」、「beansprouts」、「cotton buds」、「glue」、「blank tape」と即座に言えるのではないか。英単語（に限らずあらゆる外国語の単語）というものは概して、単語集や辞典でいくら勉強してもすぐに忘れてしまうものだが、店頭で現物を見ながらそこに表示された商品名を見れば、現物のイメージや店内の雰囲気と相俟って記憶に定着しやすいものだ。ついでに言うておけば、文脈やイメージの連想と無関係に単語をいくら暗記しても、どうせすぐに忘れてしまうであろうし、よしんば覚えていたとしても実際にその単語を適切に使いこなせるようにはなかなかならないのである。

さて、英国の有名なスーパーと言えば、テスコ